

孤星

双葉郡消防士たちの3.11

吉田千亜 著



2020年

1月29日刊行

本体1800円

四六判・並製・224頁

978-4-00-022969-2 C0036

不眠不休で続けられた地元消防の活動と葛藤を 消防士たちが初めて語ったノンフィクション

英雄視を拒んだ者たちが、ようやく過酷な体験と胸の内を明かす

これまで全く表に出ていない話ばかりです。

チェルノブイリでも消防士の被ばくが大きな問題でしたが、福島第一原発の地元消防が、地震・津波・原発災害のなか、どのような状況におかれていたのか。丁寧な取材で消防士たちの思いをすくいとった本書の記述に、原稿整理をしながら何度も涙をすすりました。

『世界』連載中も大きな反響がありましたが、著者・吉田千亜さんは単行本化のためにさらに取材を敢行。総勢70名近い消防士のことばが、当時の危機的な状況を立体的に浮かび上がらせます。

地元を愛し、地元暮らし、人命救助を使命としていた双葉郡の消防士たち。

著者が言うように、彼らが生きていてくれたからこそ聞いた話です。

そして、聞き取り伝えてくれた著者がいてこそこの本です。

ぜひこの本を、多くの人に読んでいただきますよう、心よりお願いいたします。

(編集部 大山美佐子)

『孤星 双葉郡消防士たちの3・11』刊行記念トークイベント
地元消防士が初めて語る、福島原発事故

出演 吉田千亜・本書に登場する当時活動した消防士

二月十五日(土)午後二時〜(二時半開場) 入場無料

専修大学 神田キャンパス七号館三階七三一教室

(地下鉄神保町駅A2出口より3分、九段下駅5出口より3分)

■お問い合わせ 岩波書店『世界』編集部

電話〇三(五二一〇)四一四一 event@iwamami.co.jp